

梱包は勿論の事ですが、段ボールひとつをとっても、PH（アルカリ性や酸性）のチェックをされます。うちではそこまでやれていませんので、国宝級の物になると、ヤマトさんや日通さんが取り扱われています。三年前から梱包技能士というものが出来て、私も3級は取りましたが2級以上はなかなか通らないようです。東京の業者さんも受けているようですが駄目なようです。

## 仕事は見て盗め

私たちが入った頃は先輩から教えて貰うという事はなく、先輩の仕事を観て技術を盗んで仕事を覚えるのが当たり前でした。実際に触ってみて判る事があり、怒ってくれる学芸員の先生がおられたので勉強になりました。そんな中で守屋先生は優しかったですね。

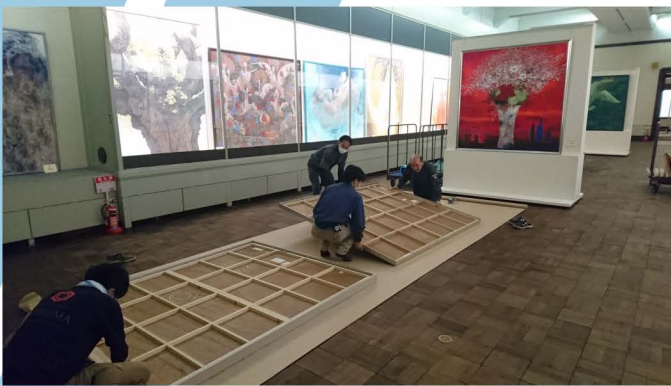
新人の頃は、文化財系の仕事は厭でした。兎に角、時間は掛かって安全に、作業はルール

に則って行わなければなりませんし、解らない事が多くて厭でした。また、所蔵者の方に、大丈夫かなと思わせたら駄目ですから大変でした。

それに比べて、公募展の時は時間内に作業を終わらせなければならぬ。大切な作品ですから傷つけないよう額の材質や絵の大きさ等、積み方も工夫しましたが気は楽でした。

## トラブルは……

車の事故は今までに2回ありました。一度は、公募展の作品を受取りにマンションに行った時の事、ドライバーが管理人さんと話している目の前のテレビカメラに、動いているトラックが映っていて停車中の車にぶつかって止まった。また、淡路島に行った時の事。道に停車していた車が、戻って見るとないので探していると林の中に落ちており、単独事故でした。どちらもサイドブレーキはしっかり固定していました。後で同じメー



カーのリコールが判りましたので、2台ともそうだったのではないかと思っています。法定点検はきっちりしていますし、先代の社長がトラック協会の役員をされていましたので、警察の防犯の方が良く来られていました。

消防署の方にお世話になりましたのは、市立美術館で公募展の作品を積みこんでいた時の事。作品を括っていた紐が切れ



て、作業をしていた社員が荷台から落ちて、頭と腰を強く打ったというので救急車を呼んで病院に運んでもらいました。

お陰様で、軽いけがで済みました。救急車にお世話になったのは、その一度だけです。